

# 平成26年度 スーパー食育スクール事業 事業結果報告書

都道府県名	愛知県
学 校 名	師勝南小学校 訓原中学校
学校のホームページアドレス	http://www.cnt.kitanagoya.ed.jp/weblog/index.php?id=shtsel http://www.cnt.kitanagoya.ed.jp/weblog/index.php?id=kmpjrh

## 1 取組テーマ

食育を通じた健康意識の向上がもたらす多角的効果の実証

## 2 栄養教諭の配置状況

栄養教諭配置年及び人数	師勝南小学校……平成26年	1人
配置されていない場合の対応状況	訓原中学校……未配置のため師勝南小学校と連携	

## 3 学校食育プログラム検討委員会及び食育推進協議会の構成

愛知県学校食育プログラム検討委員会	北名古屋市食育推進協議会
野田 敦敬 愛知教育大学教授	吉田 文明 北名古屋市教育委員会教育長
村上 光男 JA愛知中央会地域振興部長	辻 とみ子 名古屋文理大学教授
鈴木 敏彦 愛知県小中学校長会給食委員会委員長	浅井 大司 愛知県教育委員会健康学習課主査
山西 宣好 愛知県学校給食センター連絡協議会長	神谷 幸男 北名古屋市立師勝南小学校長
杉浦 立子 愛知県栄養教諭・学校栄養職員連絡協議会長	千田 秀樹 北名古屋市立訓原中学校長
丹羽 敏男 北名古屋市教育委員会主幹	片岡 和恵 北名古屋市立師勝南小学校栄養教諭
神谷 幸男 北名古屋市立師勝南小学校長	玉城 茂美 北名古屋市児童課保育士長
千田 秀樹 北名古屋市立訓原中学校長	森 宏升 北名古屋市健康課長
片岡 和恵 北名古屋市立師勝南小学校栄養教諭	犬飼 賢二 北名古屋市シルバー人材センター
兼松 功 愛知県農林水産部食育推進課主幹	三和かつ彦 北名古屋市商工会事務局長
山村 浩二 愛知県健康福祉部保健医療局健康対策課長補佐	加藤富士美 北名古屋市食生活改善推進協議会会長
近藤 美和 愛知県教育委員会高等学校教育課指導主事	松本やよい 北名古屋市立師勝南小学校PTA代表
近藤 健一 愛知県教育委員会尾張教育事務所指導主事	池寄 照美 北名古屋市立訓原中学校PTA代表
鈴木 裕 愛知県教育委員会健康学習課長	水野 智子 北名古屋市保育園保護者代表
鹿取 健司 愛知県教育委員会健康学習課主幹	奥園 淳子 NPO法人幼児研究機構代表
事務局 4名	事務局 4名

## 4 連携機関及び連携内容

連携機関名	連携内容
NPO法人幼児研究機構	企画立案、調査分析
株式会社タニタ	データ分析、専門家による特別授業
名古屋文理大学	専門家による特別授業、調理実習

日進乳業株式会社	社会見学
名古屋バナナ加工株式会社	社会見学
株式会社真誠	社会見学
株式会社明治	シンポジウム協賛
食のアウトレットモール北名古屋	シンポジウム協賛
岐阜聖徳学園大学	専門家による特別授業
師勝南小学校学校運営協議会	きたなごうどん作り体験
麵遊会	きたなごうどん作り体験
清須保健所管内栄養士会	栄養指導

## 5 実践内容

<b>事業目標</b>	
A	食の重要性の認識と、選食能力の取得
B	規則正しい生活習慣の定着
C	日常生活での活動量、運動量の向上
D	健全な発育の推進・肥満傾向児童生徒の解消
E	多角的好循環がもたらす学習意欲の向上
<b>評価指標</b>	
A	食事の重要性を理解し、食品を選択する能力を向上させる。
B	朝食欠食率を3%未満にする。
C	新体力テスト結果数値を県平均レベルにする。
D	肥満傾向児童生徒の出現率を5%未満にする。
E	学力テスト偏差値を上昇させる。
<b>評価方法</b>	
1	対象全児童生徒の個人測定データを基に、次のA～Eを検証する。
2	開始時と終了時に食と健康に関する意識調査（食育アンケート及び食生活に関するアンケート）を実施し、A及びEを比較する。
A	活動量と食と健康に関する意識の変化
B	活動量と規則正しい食習慣の定着度の変化
C	活動量と新体力テスト結果の変化
D	活動量と肥満傾向児童生徒の出現率と児童生徒個人の肥満度の変化
E	食と健康に関する意識の変化による学習意欲、学力の変化



<b>評価指標を向上させるための仮説(道筋)</b>	
〈共通〉	
・	栄養教諭による食育授業や専門家による特別授業により、食育を通じた健康意識を向上させ、多角的効果をもたらす。(A～E)
・	B DHQ (簡易型自記式食事歴法質問票) 調査による食の診断結果を改善への指標とすることによって、食の重要性を認識させ、選食能力を高めさせるとともに、学習意欲を高めさせ学力を向上させる。(A、E)
・	活動量測定で日々の活動量を児童生徒自身が意識することによって、肥満傾向児童生徒の出現率を低下させるとともに、体力を向上させる。(C、D)
〈師勝南小学校〉	
・	元気モリモリ南っ子カード、朝ごはんガイド、親子での朝ごはんづくり体験により、朝食欠食率を低下させるとともに、バランスのよい朝ごはんを実践しようとする意欲を高めさせる。(A、B)

- ・ 元気モリモリ南っ子週間として、業間体育を毎月2週間実施することで、運動をする機会を増やし、日常生活の中で運動しようとする意欲を高めさせ、肥満傾向児童の出現率を低下させるとともに、体力を向上させる。 (C、D)

(訓原中学校)

- ・ 食と健康チェックカード、早寝早起きをするためのヒント集、朝ごはんレシピガイド、朝ごはんづくり体験で朝食欠食率を低下させるとともに、規則正しい生活習慣を定着させる。

(A、B)



## 実践内容

### ○具体的な取組

(共通)

- ・ 食育ポスターデザイン募集 (市内小中学校：153名応募)
- ・ 講演「夢をかなえるからだ」及び活動量計(歩数計)説明会 6月10日
- ・ 食育シンポジウムの開催 6月14日 北名古屋文化勤労会館大ホール  
特別講演：服部幸應 (参加者：市民550名)  
シンポジウムパネリスト：山東昭子、服部幸應、片岡和恵  
コーディネーター：奥園淳子
- ・ 食育アンケート、BDHQ調査、食生活に関するアンケート実施
- ・ 活動量計(歩数計) 6月17日着用開始
- ・ 体組成(身長、体重、体脂肪、筋肉量、肥満度)を測定 1回/月

(師勝南小学校)

- ・ 栄養教諭による食育授業

4年生「食べ物の働きを知ろう」 各クラス1時間  
「親子で朝ごはんを考えよう」 学年1時間  
「おやつ摂り方考えよう」 各クラス1時間  
「牛乳とカルシウム」 各クラス1時間

5年生「牛乳とカルシウム」 各クラス1時間  
「おやつ摂り方考えよう」 各クラス1時間  
「朝ごはんを食べよう」 各クラス1時間  
「栄養素の働きを知ろう」 各クラス1時間

「バランスのとれた食事をしよう」 各クラス1時間  
「郷土料理を大切にしよう」 各クラス1時間  
6年生「朝ごはんについて考えよう」 各クラス1時間  
「栄養のバランスを考えて食事をしよう」 各クラス1時間

「元気になる朝ごはんを作ろう」 各クラス3時間  
「牛乳とカルシウム」 各クラス1時間  
「おやつ摂り方考えよう」 各クラス1時間  
「おやつ秘密を探ろう」 学年1時間

- ・ わが家の愛で朝ごはんコンテスト (愛知県教育委員会主催) 応募
- ・ 「親子で朝ごはんをつくろう」 全学年で実施
- ・ 運動会のお弁当作りを共食の機会として位置付ける食育だよりの発行
- ・ 専門家による特別授業 (親子で参加)

第1回 「夢をかなえるからだ」 第2回 「食事と睡眠、運動の大切さ」  
第3回 「体を支える骨や筋肉と運動」 第4回 「ピーマンの旅」  
第5回 「睡眠・食事・運動と健康づくり」

- ・ 親子書初め大会において「きたなごうどん作り」「北名古屋の野菜を食べよう栄養指導」



栄養教諭による食育授業

希望者が体験

- ・元気モリモリ南っ子カード(保護者と一緒に食生活と活動の点検) 6回実施
- ・郷土料理クラブ おやつ作り 3回実施
- ・食品企業見学 4年生、5年生、6年生の希望者 各学年1回



輸入果物の話を聞く児童



ゴマの食べ比べをする児童

- ・給食の時間の食に関する指導

- 4年生 「よくかんで食べよう」 各クラス1回
- 4年生 「貧血を予防しよう」 各クラス1回
- 5年生 「貧血を予防しよう」 各クラス1回
- 6年生 「貧血を予防しよう」 各クラス1回

- ・元気モリモリ南っ子週間(活動を高める取組として業間体育の実施)

2週間/月 6回実施

- ・保健集会 児童保健委員による発表「早寝・早起き・朝ごはん・運動」

活動量測定の実施状況報告

講師講話 「元気な体の作り方」

(訓原中学校)

- ・栄養教諭による食育授業

- 「バランスのよい食事をしよう」 学年1時間
- 「朝ごはんと規則正しい生活リズム」 学年1時間
- 「牛乳とカルシウム」 学年1時間
- 「おやつの摂り方を考えよう」 学年1時間
- 「家族が喜ぶ朝ごはんを作ろう」 各クラス1時間



専門家による特別授業

- ・専門家による特別授業

- 第1回 「夢をかなえるからだ」 第2回 「体を支える骨や筋肉と運動」
- 第3回 「消化と吸収」 第4回 「体の成長を支える睡眠」

- ・担任によるミニ食育指導 「貧血を予防しよう」 1回実施

- ・「家族が喜ぶ朝ごはんを作ろう」 家庭で実施

- ・食と健康チェックカード(食生活と活動の点検) 6回実施

- ・キャリア教育 生徒給食委員会 1回

名古屋文理大学 体験授業「心も体もスマートになるための食事」 調理実習



講義を受ける生徒



調理をする生徒

- ・学校保健委員会「ご飯とおかずになるみそ汁づくり」 1回実施

- ・生徒給食委員会 「スピード大作戦」 6月

- ・PTA主催料理教室 「貧血を予防しよう」 1回実施

## 6 成果


A 食の重要性の認識と、選食能力の取得



食事の重要性を理解し、食品を選択する能力を向上させる。


- ・朝食で肉・魚・卵・大豆製品を使用したおかずを毎日及び大体毎日食べている児童は 65.8%から 74.4%へ、生徒は 74.0%から 83.0%へ増加した。
- ・おやつで、ジュース類を摂る児童が減少し果物を摂る児童が増加した。また、おやつを選ぶ理由では、「好きだから」が 23.0%から 12.2%へ減少した。
- ・自分の健康を考えて食品を選んでいる生徒は、10.9%から 14.1%へ増加した。

#### B 規則正しい生活習慣の定着

 朝食欠食率を 3%未満にする。

- ・朝食を「1週間に 4～5日食べない」「いつも食べない」児童は 1.2%から 1.2%と変化はなかった。生徒は 4.6%から 3.1%へ減少した。

#### C 日常生活での活動量、運動量の向上

 新体力テスト結果数値を県平均レベルにする。


- ・新体力テストの 7 種目（小学校 4 年生は 5 種目）を 5 月と 12 月に測定した。12 月の測定では、52 種目のうち 35 種目が県平均を上回った。また、38 種目で 5 月より 12 月の測定の方が上回った。

#### D 健全な発育の推進・肥満傾向児童生徒の解消

 肥満傾向児童生徒の出現率を 5%未満にする。

- ・肥満傾向児童生徒の出現率の割合は、9.9%から 9.1%となり、わずかに減少した。
- ・4 月の身体計測時に肥満傾向児童生徒だった 50 人のうち、1 月の身体計測時には 18 人に肥満度の改善が認められた。

#### E 多角的好循環がもたらす学習意欲の向上

 学力テストの偏差値を上昇させる。

- ・様々な取組により、心と体の調子が良く、何もやる気がおこらないと「感じたことがない」児童は 42.4%から 62.2%へ、生徒は 26.4%から 36.1%へ増加し、健全で活力に満ちた児童生徒が増加した。前年度に比べ、児童では 4 月から 12 月の 1 日当たりの欠席者が、4.6 人から 3.9 人へ減少した。内科での 1 日当たりの保健室来室者は児童が 2.3 人から 1.5 人へ、生徒は 0.4 人から 0.3 人へ減少した。学力については、毎年実施している標準学力テストを通して比較検討した。食育による多角的好循環が学習意欲を向上させ、学力の向上にも結び付く可能性があることを実感としてつかむことができた。

## 7 スーパー食育スクール事業の取組状況の情報発信

- 学校のホームページで随時、また、食育たより、保健たより、校長室たよりなどで定期的に情報を発信した。
- 「食と健康・食育のすすめ」をテーマに食育シンポジウムを市民を対象に開催した。
- 食育推進啓発リーフレットを市内全世帯に配付するとともに、大手新聞社に情報発信し、それが取り上げられ隔週で掲載された。

## 8 今後の課題

栄養教諭による食育授業や専門家による特別授業により、食事の重要性を一層理解し、日々の生活に生かそうとするようになり、児童生徒への食に関する意識は高まった。しかし、児童生徒の食を掌るのは家庭であり、いかにして家庭に有効に働きかけをしていくかを追求していく必要がある。

また、本事業を通して、効果の高かった取組について他校へ広げ、市内の小中学校の食育を推進するためには、食育推進会議を継続し、教育委員会による食育推進体制を早急に確立することが必要である。

大学、企業の講師を招いての食育講座、地元の食育団体との食育体験、地元食品会社の見学など、様々な取り組みを行政関係機関と連携して実施することにより、食育の連携の輪の基礎を築くことができた。今後は、こうした食育の輪をさらに広げていくとともに、市内の小中学校が食育の輪に入り、輪をつなげていくことができるよう行政機関と連携して体制づくりをすることが重要である。